READERS VOICE

読者の声　コンサルタンツ北海道131号

■報告

リージョナルステート研究会『平成24年度総会および講演会』

リージョナルステート研究会の平成24年度活動報告、平成25年度活動計画、講演概要を拝読させていただきました。

活動計画では、《自然エネルギー》や《北海道の水資源》に取り組まれるとのこと、共に身近なテーマになりますね。《自然エネルギー》に関しては福島での原発事故から関心が高まり、《北海道の水資源》に関してもニセコなどでの水源保護条例などで新たな取り組みも見られます。成果を楽しみにしております。

講演では《鉄道》に関する話題を提供され、拝聴できなかったことを残念に思っております。蛇足ではありますが、昨今の道内でのトラブルを見聞きして本来の技術伝承が的確になされてきたのか心配になります。

この分野に限ったことではありませんが……。

（MK）

（公社）日本技術士会北海道本部
第11回技術フォーラム報告

「北海道新幹線延伸と地域の活性化」―技術士への期待と役割―

CPDについては、技術士法の中で資格取得後の資質向上のため、継続的な技術研鑽が責務とされていることから設けられた制度と言えるが、正直いって年間50CPD、3年間150CPD取得はなかなか厳しい。仕事で論文発表する機会が多いか、或いは平日の講習会や研修会に積極的に参加する機会に恵まれていないと、たまに受講する程度では年間50CPDを達成するのは難しいのが現実であると思う。そうかといって技術の研鑽は不可欠であるから今回のようなCPD説明会は意義がある。

そこで目標時間を達成する一つの手段として特定の講習会を受講すると、通常の単位時間数に加えてボーナスポイント（或いは重み係数を増やす）がもらえるようにしたらどうであろうか。技術者としての資質向上はもちろん必要であるが、CPDに対する理解や取組みも重要な要素である。現状のCPD登録者や認定者の数字を見たとき、何かCPDをとりやすくする方法を考えても良いのではないかと思う。

特別講演「北海道新幹線の事業概要」と「北海道新幹線のさらなる利用を目指して」はなかなか興味ある講演であった。一時は絶望とまで云われていた北海道延伸、更に札幌までの延伸が認められたことは大いに喜ばしい。新幹線サイズで建設された青函トンネルが開通して25年、工事の難しさや苦労の程は高倉健の映画にもなっていて何度か見る機会があり感激したものである。当初の計画では札幌～東京で4時間を切るとなっていたはずであるが、今回明らかになったのは約5時間だという。青函トンネル内を走行する在来線サイズの貨物列車が問題であるとか。この点は、佐藤教授が述べられているトレインオントレインやフリーゲージトレインなどで、新幹線軌道での輸送に切り替えるべきである。北海道は我が国の食料基地であり、生産品を本州その他へ大量スピード輸送することが出来れば活性化の糸口になると思われる。人口減少は負の要素ではあるが、北海道の人間が乗ることはもとより、北海道へ大量の人を呼び込む、そのために新幹線を利用してもらうことが大切ではないか。観光にしても札幌を拠点に、道内数多くの観光地への利便性を高めれば解決する問題ではないかと思う。

札幌延伸まであと19年だとか、課題を解決しつつ完成が少しでも早まることを期待したい。

(K. T)

■私のプロジェクトX

私のプロジェクトX

筆者の佐崎技術士は、冒頭のまえがきで「内容は今までに書かれたものよりはるかに稚拙でお恥ずかしい限り……」と書かれていますが、まったくそんなことありません。技術的な内容が満載で判り易く、いっきに読ませていただきました。

美利河ダム、留萌ダムなど、今では地図に載っているダムの設計時で、技術的な課題や問題点が発生し、それをクリアするために立ち向かう佐崎技術士のパワーが伝わってきました。そのパワーは経営者となっても変わらず、社業の発展に繋げた手腕は、技術者として培ってきた経験がなし得たことのように思います。

現在は社内で報告書の審査と営業活動、社外では技術士翻訳センターで技術図書の翻訳、北海道本部の倫理委員会の委員長、土木学会特別上級土木技術者会議の幹事を務められているとのことですが、恐るべきパワーです。

私は倫理委員会に参加させていただいています。定例会での熱いパワー(議論)、その後の情報交換会でのパワー(酒量)にも驚かされます。

そのパワーをいつまでも持ち続けていただき、私のような若造技術士に叱咤激励をこれからもよろしくお願いいたします。

by OTN53(別称：のんべ53)

■活動レポート

北方海域技術研究会
「平成25年度　総会・特別講演会の報告」

まず、東日本大震災での福島原発事故に係る海洋への放射能拡散の影響は、最近の地下水からの海洋への流出についての新聞報道でも聞きおよんでおり、講演1の中田氏の講演内容と合わせ、改めて私たち技術者が総力を挙げて取り組まなければならい課題との認識をさせられました。

また、講演2の鈴木氏の演題である北海道のこれまでの担ってきた役割(明治・大正期の開拓と北方防衛、また、第2次世界大戦後の国土の復興と食糧生産の飛躍)を踏まえ、今まさに、3度目の脚光を浴びることへの期待が注がれていることが、ひしひしと感じられる内容でした。そのための国際化や技術開発の推進、そしてインフラ整備と多くの課題があることも予測させられるものでした。

(J. I)

エゾシカ研究会
「エゾシカ問題の解決に向けて～ハンターの視点から～」

北海道ではエゾシカの増加と分布域の拡大に伴って、農林業被害を引き起こし、飛び出しによる交通事故なども増えてきている。

エゾシカは繁殖力が強く、繁殖期には雄はなわばりの中に雌の群れを囲い、一夫多妻の群れ、すなわち「ハーレム」をつくる。このため、年に15～20%の割合で個体数が増え、放っておけば4～5年で2倍になると言われている。

このように増え続けるエゾシカの問題解決に向け、ハンターの皆様が銃砲所持許可および撃つことよりも撃った後の処理など、大変ご苦労をされていることが分かりました。また、北海道の猟期は、9月15日から翌年の4月15日までの積雪期間にあたり、山中を歩くことが非常に困難な状況の中、ハンターが一人1日雄1頭、雌無制限の捕獲が可能となっていますが、撃った後の処理などを考えると何頭も捕獲することは非常に大変なことだと思います。

エゾシカ問題解決には、猟期や撃った後の処理およびハンターの高齢化など取り組むべき課題がたくさんあると思います。

これらの様々な問題解決に向けて、エゾシカ研究会が今後ますますご活躍されることを祈っております。

最後に、私も銃砲所持許可を所持していましたが出張が多く、銃砲の検査と保管には苦労しました。

(YS22)

道東技術士会
第66回総会・講演会を開催

道東技術士会では、総会を年2回、釧路と帯広で交互に開催しているとのことで、活発な活動に敬意を表します。総会後の講演会では、十勝の地域特性を生かしたバックアップ機能として、「食・水・エネルギーの安定供給」について紹介され、興味深く読ませて頂きました。このような中、現在政府が進めているTPP問題に、どのように対処していくのかが問われそうに思います。益々のご発展を祈念しております。

(Y．K　血液AB型)

防災委員会
東日本大震災を教訓とした「北海道の防災」

これを読んで、2年前の地獄絵のようなテレビ映像が甦ってきました。日本人として決して忘れてはならないその画像はついさっきまで私の記憶のはるか遠くにありました。人間とは冷酷な生き物で、時間が経つに連れて都合の悪いことは知らず知らずに消去されていきます。もうすぐまとめられる「教訓と提言」は、北海道の住民にとって記憶を新たにし、災害に備える貴重な啓蒙書となることでしょう。

北大の著名な先生が、津波堆積物が示す根室〜十勝での遡上・津波高が15～20mに及ぶことから、慶長三陸地震が実は千島海溝が震源だった可能性もあると言われており、先の大震災が北海道でいつ起きても何らおかしくないのです。今年の夏には最終案が出来上がり、10月の技術士全国大会で発表されるとのこと、大変でしょうがそれだけ期待も大きく、会員の皆様の奮闘を祈念申し上げます。

(いつものおせっかい男　MS)